

## 製品名: MMP-13 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab13979

研究使用のみ

### 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

### 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:100-1:300,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	55kDa

### 抗原情報

遺伝子名	MMP13
別名	MMP13; Collagenase 3; Matrix metalloproteinase-13; MMP-13
遺伝子 ID	4322.0
SwissProt ID	P45452
免疫原	抗血清はヒト MMP-13 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 10-59

### 背景

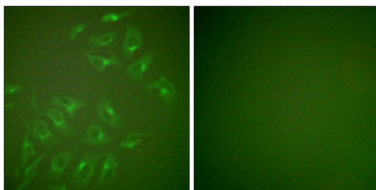
この遺伝子は、マトリックスメタロプロテアーゼ (MMP) のペプチダーゼ M10 ファミリーのメンバーをコードします。このファミリーのタンパク質は、胚発生、生殖、組織リモデリングなどの正常な生理学的プロセス、ならびに関節炎や転移などの疾患プロセス

における細胞外マトリックスの分解に関与しています。コードされているプレプロタンパク質は、タンパク質分解によって成熟プロテアーゼを生成します。このプロテアーゼは、I型およびIII型コラーゲンよりもII型コラーゲンをより効率的に分解します。関節軟骨のターンオーバーおよび変形性関節症に関連する軟骨の病態生理に関与している可能性があります。この遺伝子の変異は、骨幹端異形成症と関連しています。この遺伝子は、11番染色体上のMMP遺伝子クラスターの一部です。[RefSeq提供、2016年1月]、補因子：サブユニットあたり2個の亜鉛イオンを結合します。、補因子：サブユニットあたり4個のカルシウムイオンを結合します。、疾患：MMP13の欠陥は、脊椎骨端骨幹端異形成症2型(SEMD2) [MIM:602111]の原因です。ミズーリ型脊椎骨端骨幹端異形成症とも呼ばれます。SEMDは、脊椎および長骨の成長および形成の欠陥を特徴とする、異質な骨格疾患のグループです。SEMDは、骨端と骨幹端の両方が関与している点で、脊椎骨幹端異形成症および脊椎骨端異形成症と区別されます。これら3つの疾患は、椎骨の奇形という共通点を持つ。、ドメイン：システインスイッチモチーフに存在する保存されたシステインが触媒亜鉛イオンと結合し、酵素を阻害する。活性化ペプチドの放出に伴い、亜鉛イオンからシステインが解離することで酵素が活性化される。、機能：I型コラーゲンを分解する。ゼラチンやカゼインには作用しない。腫瘍形成過程において何らかの役割を果たす可能性がある。、類似性：ペプチダーゼM10Aファミリーに属する。、類似性：4つのヘモペクシン様ドメインを含む。、組織特異性：乳がんにと特異的と思われる。、

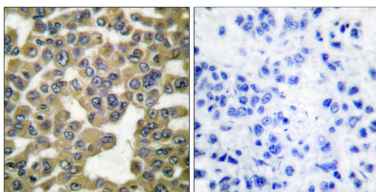
## 研究分野

血管新生

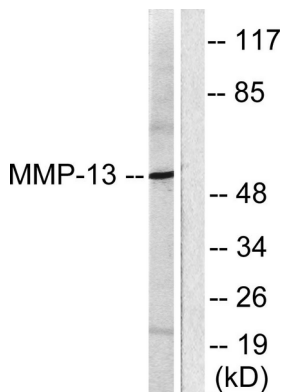
## 画像データ



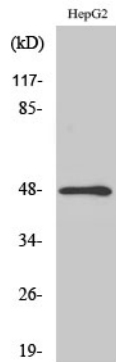
MMP-13抗体を用いたHepG2細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



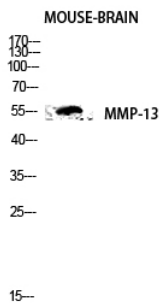
MMP-13抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



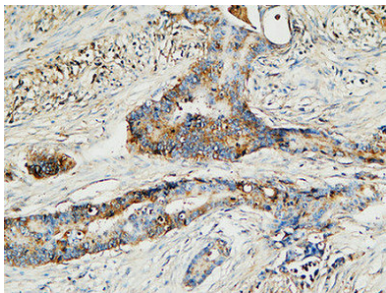
MMP-13抗体を用いたLOVO細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



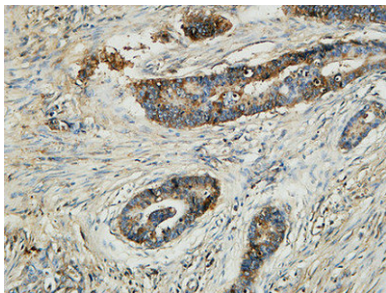
1: 500 に希釈した MMP-13 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



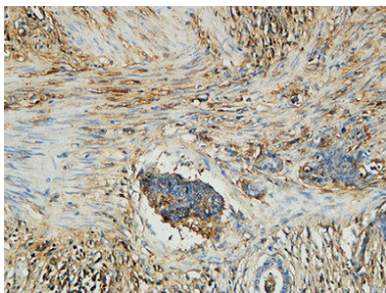
MMP-13 抗体を用いたマウス脳溶解のウェスタンブロット解析。抗体は 1:500 に希釈した。



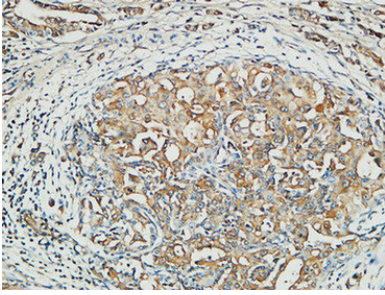
パラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。